



～えほんだより 2026・1月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「ちいさなトリさんがツーピーツツピー」

ちいさなトリさんとどうぶつたちのなき声の掛け合いが楽しい絵本です。
ツーピーツツピー わんちゃんにうし、にわとりさん。
おとこのこに「ツーピーツツピー」と
ちいさなトリさんがなくと
「こんなにちは トリさん」ってこたえてくれました。



2歳児 「さむい さむい」

雪がつもってさむいさむい。やねをみつけたと思ったら、だれ？じっとしてるとつもっちゃう。やねをみつけたと思ったら、つぎはだれ？わくわくしながら楽しめるお話です。
最後はみんな雪の中？それとも…？どんな動物が登場するお楽しみ。

3歳児 「おなじ」

数は並べ方が変わっても変わらない…同じ。果物は半分こにしたら模様が同じ。
同じ名前でも種類が違う。違うものだと思ったら、同じものでできている。同じジュースでも容器に形によって量が違って見える。「くらべてみる」「違いに気づく」ことが楽しくなる時。身の回りのいろんなものを比べてみよう。「ちがい」と「おなじ」は簡単だけど難しいね。



4歳児 「やまたまのへっぴりじさま」

むかしむかし、よくのないじさまと、よく深いじさまの話。
「ちゅう、ちゅう、にしきさらさら、ごようのまつばら、とっぴんぱらり…、ぱっ」やまやまのへっぴりじいはやまのかみが喜ばすようにへをたれた。喜んだやまのかみはお礼に「つづら」をくれる。小さいつづらには食べ物や着物、宝がいっぱい。それを見ていた隣のばさまがじさまを山へいかせました「おおきなつづら」をもらってくるように…。時代や土地のことば「方言」もまた面白い。

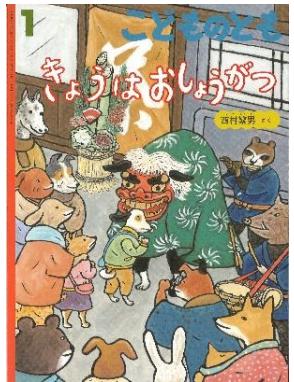
5歳児 かがくのとも 「あかいみと とり」

自然の中には実をつける植物がいっぱい。「誰か種をまくのかな？」
実を食べた鳥は種の入ったふんをしたり、固い種を皮いと口から吐き出したりする。
「ナンテンの実」は苦いからちょっとだけ食べて、鳥は遠くへ飛んで行ってふんをする。だからナンテンが広がるんだ。鳥たちによく見える色。まっいい形は鳥のくちばしからつるつる入りやすい形。「とりさん、食べてもいいから種を運んでね」木の実はそんな気持ちなのかな。口の大きさにあった木の実を鳥は選んでいるのかもしれないな。



5歳児 「きょうはおしょうがつ」

日本の文化「おしょうがつ」がいっぱいの絵本です。
初日の出、「あけましておめでとう」。おとそにおせち。お雑煮。年賀状におとしだま。獅子舞や神社でおみくじ。みんなでトランプかるた遊び。



こままわしに凧揚げや羽根つき。書初めをしてお正月の「三が日」を過ごしていました。
みんなのおしょうがつ」どんなお正月だったかな？

～今月のセレクション～

「さんまいのおふだ」

はなきりにやまへでかけた小僧。どんどん奥に行くうちに、暗くなり帰りの道が分からなくなつた。明かりのついた1軒のうちがあつたので行くと、そこにはしらがのおばばがいた。

おたまをペランペラン、おしりをザランザラン。おばばが怖くて逃げたくてべんじょにいった。そこにべんじょの神様が現れて、「さんまいのおふだ」を持たせて逃がしてくれた。1枚目のふだで大きな山、二枚目のふだで大きな川、三枚目のふだで大火事をおこしたけれど、おばばはそれでも追いかけてきた。何とか寺についた小僧。おしょうさまは小僧を隠し、おばばと「じゆつくらべ」することにした。さて、和尚さんはどうやっておばばをやっつけたのかな？ちょっと怖いお話。絵からもその怖さが伝わってきます。



ところで、昔話には「怖い話」「残酷な話」が多いと思いませんか？

昔話には「悪いことをするとどうなるか」「約束を守らないと危ない」という(教訓)の要素が込められており、怖い場面を通じて子どもたちは「選択」と「結果」の結びつきを感覚的に学び、自分の行動を振り返るきっかけを得るように教育的・道徳的な目的があったとか。近年ではその内容があまり怖くないように、残酷ではないように変えられて世に出回っています。優しい話が増えたということ。それは、学校へ行くことが当たり前になり、道徳的教育が行われる機会ができたからのようです。また子どもの「トラウマ」ということも危惧されてのこと…という説があるようです。でも、やっぱり原作を知ることは大切ですね。私たち大人が「本当のお話」に出会うことが大切ですね。





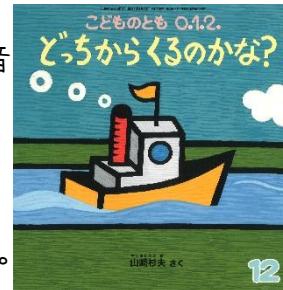
～えほんだより 12月号～

【今日の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「どっちからくるのかな？」

う～う～、だだだだだー、ゴットンゴットン、パタパタ… 街の中を歩いている時、公園で遊んでいる時、いろいろな音が聞こえています。「あれ？どっちからくるのかな？」 「来た来た」「いたいた」こんなやり取り、必ずありますよね。

見開き2面を使って「どっちかな～」「あっ、こっちから」とページをめくる時、わくわく・どきどき…楽しくなる絵本です。

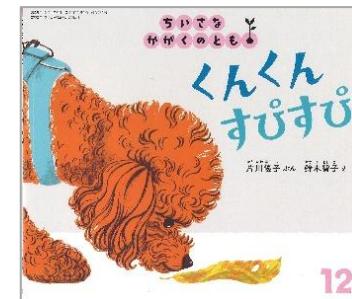


2歳児 「やきやきてっふん」

やきやきてっふん なにやける？焼いたらおいしいものができあがる。たい焼き、たこ焼き、卵焼き。ホットサンドにお好み焼き。

食べるとときは熱いけど、鉄板があるとおいしいものができるね。

絵本の中のことばのリズムが歌のようで、とても耳心地のよい絵本です。昔話の歌絵本のような気持で、親子で一緒にたのめそう。作りながら口ずさんでも楽しそうなお話です。



3歳児 「くんくん すぴすぴ」

くんくん すぴすぴ…犬のニコはいろんなにおいを嗅ぎます。

くんくんすぴすぴ お土産のにおい。くんくんすぴすぴ ねこのにおい。くんくんすぴすぴ 犬はお尻のにおいをかいでお友だちになるそうです。はなちゃんもニコとお友だちになりました。そっと手のにおいをかがせてあげました。

犬をよく観察すると知らなかったことがたくさんあります。

くんくんすぴすぴ…私たちの周りのいろんなにおい…ニコをまねてみる？…

4歳児 「ゆきがまちどおしい ヤチネズミさん」



キツネやタカ、テンやフクロウが怖くて、畑のすみの草むらにくらしているヤチネズミさん。寒くて南へ飛びたつビタキや雪が嫌いなリスが不思議に思うけど、ヤチネズミは雪が待ち遠しいようです。あつめた草を噛んで糸にして、雪を待ちながらきれいな織物を織っています。雪は少しずつ降り、とうとう窓が埋もれるほど雪は積もりました。きれいな織物とよもぎのお茶をつつみ、しっかりとからだに巻き付け、スコップで出口をつくり、雪の中をほってほって掘り進みました。ヤチネズミさんは一体どこに出かけたのかな？？寒くとも心が温かくなるお話です。

5歳児 かがくのとも 「つくってあそぼう！つりぱり」

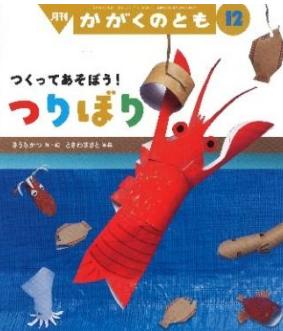
玩具をつくって遊ぶ…

昔あそびはほとんどがそうですね。子ども達が大好きな魚釣り遊びで、魚だけでなくいろいろな種類の生き物を作っています。釣り竿は磁石なんて使いません。

作るのも楽しい、釣るのも

面白そうです…やりたい気持ちになる絵本です。

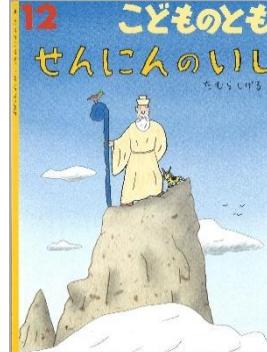
どこにでもある材料なので、家庭でも楽しめます。遊びを作り出す力こそ「生きる力」ですね。



5歳児 「せんにんのいし」

ボノさんは玄関の前に大きな石を見つけました。庭に捨てても、森に捨ててもその石はボノさんの家の前に戻ってきます。困ってもっと遠くに捨てようと、トラックで遠くの海へ行き、捨てました。帰ってみると石は家の前には戻っていません。「やった いしはうみのなか」安心したボノさんが家に入ると濡れた石はテーブルに。なんと「ハクション」と声がする…。

この石、いったいどんな石？



～今月のセレクション～

「サンタさんからきたてがみ」

クリスマスの前の日、ネズミの郵便屋さんがはりきって手紙の配達に飛び出します。「うわっ」急ぎ過ぎたネズミさんはすってんこりん。すると、大切な手紙が雪の中に飛び出しました。慌てて拾い集めたのですが、1通の宛先が雪に濡れて読めなくなっていました。



困ったネズミさんに気づいた森の動物たちが一緒に考えているうちに、なんと「サンタさん」からの手紙だとわかつて大慌て。さあ、手紙にはなんて書いてあったのでしょうか？

動物たちが力を合わせて素敵なクリスマスを迎えるお話です。



12月と言えば「クリスマス」な感じですが、日本の文化に関する絵本も読んでほしい。「十二支のはじまり」実は幼児さんの劇遊びに取り入れられるくらい、子ども達も大好きな絵本です。干支を順番通りに言える？…大人もちょっと怪しかったりしますよね。この絵本は、干支の順番だけでなく、どうしてこの動物たちになったのか…も教えてくれます。

「十二支のしんねんかい」は語呂のよい言葉やユーモラスな言葉に乗せて、干支の紹介と干支のみんなで新年会の絵本です。温かい絵も楽しめます。

「おせち」…おせちの絵本？と思いがちですが、意外と人気の絵本なんですよ。





～えほんだより 11月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「とことこ くまさん」

くまさん くまさん とことこと 子どもたちの大好きなくまさんが森の中をとことこお散歩しながら、秋の「おいしいもの」をみつけに行くお話です。

とことことこ がりがりがり みつけた

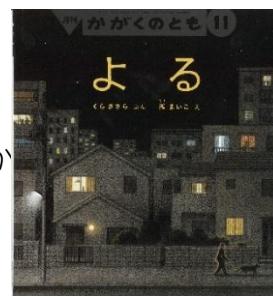
テンポの良いことばがたくさん。公園などをお散歩するときに、絵本のフレーズのように感じたものを音にして、目と耳、リズムでお話を楽しみましょう。



5歳児 かがくのとも 「よる」

当たり前に毎日訪れる「よる」子どもたちにとってよるはちょっと怖く、でもよるに出かけるとなんだがいつもよりちょっとドキドキしちゃう。

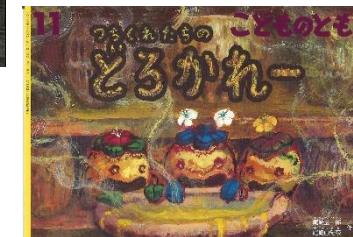
そんなよるにみんなが眠っている間、公園や商店街、線路、信号はみんなと同じように眠っているのかしら。大人にとっては当たり前のことも、子どもたちにとっては知らないことばかり。新しい気づきになりそうな1冊です。



5歳児 「つちくれたちの どろかれー」

ある公園の寒い朝。つちのかたまり「つちくれたち」のお話です。

土の中にあるつちくれたちが集まる秘密のお店のおいしいどろかれーが食べたくて、ちいさな3人が奮闘します。ちょっとあきらめたくなった時もあつたけれど、さあおいしいどろかれーはどうなったかしら？



2歳児 「ちいさな しろい こねこちゃん」

足の一つが痛いかわいそうなこねこちゃん。もりのよいしゃさん ふくろうせんせいにみてもらうために ひとりよたよたあります。ふくろうせんせいによると「おやゆびがまっしろだ」って。でもね、先生にみてもらったら うちまでぴょんぴょんかけていけたの。

さあ、ふくろうせんせいはどんなことをしてくれたのかな？？

3歳児 「みんなの かきのみ」

この季節、給食でも登場する「かき」。木になっている柿をどれくらいの子がしているかしら。

自然いっぱいのおばあちゃんのおうちに遊びに行って、木になっている大きな柿を見つけました。木になっている柿を見た時、柿を触った時、ふんずけちゃった時…小さな経験に大きな発見がいっぱいです。おばあちゃんちの柿だけれど、自然の中のみんなが食べに来る…だから「みんなのかきのみ」なんだね。



～今月のセレクション～

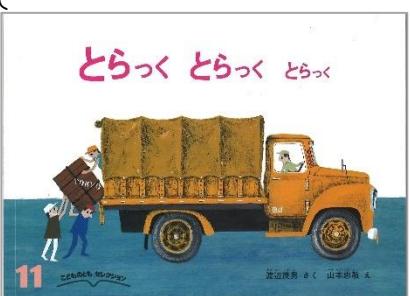
「とらっく とらっく とらっく」

乗り物の絵本？？乗り物にはあまり興味がないからな…表紙からはそんな感じを受ける絵本です。確かに乗り物の絵本ですが、なんだか自分がとらっくに乗っている…のではなく、とらっくになった気持ちになる絵本です。

走っている時のとらっくから見えるほかの働く自動車や景色。そしてとらっくが走っている時のとらっく自身の気持ち。

調子に乗り過ぎておまわりさんに叱られた時の運転手さん…を近くで見ているとらっくの気持ちが伝わってくるようです。

お話の主人公が生き物ではなくても、お話の中でなりきって、その時の気持ちを自分のことのように感じられるのが絵本の面白さですね。



4歳児 「あいうえどうぶつ おやすみなさい」

あいうえおおあくび うさぎです…あいうえおと動物をマッチングしたことば遊びの絵本です。

子どもたちの知っている動物たちですが、動物たちを表現することばは目新しく、絵はやさしい世界を作っています。

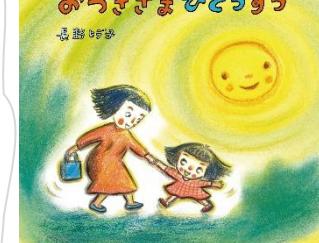
そろそろひらがなに興味を示す年齢。絵本をまねて、親子で違したことば遊びの絵本作りも楽しめそう。

「おやすみなさい」で、寝る前の読み聞かせにもぴったりの絵本です。

保育室からとってもかわいいお話が聞けました。10月号3歳児クラスの絵本「おつきさまとさんぽ」を子どもたちの前で職員が読んだ時のことです。読み終わった後に「ぼく、昨日お月さま見たよ」「私も見たよ」「ぼくも…」「保育園の近くでもみたけど、おうちの近くでもみたよ」「あれ？お月さまってたくさんあるの？」

大人には当たり前の出来事ですが、この「不思議」が大事。大人に言われて「そうなんだ」では終わらず、「あれ？」「なんで？」そして「知りたい」…これこそが学びの芽生えです。

そして、お月さまのこんな絵本も合わせて読んでみては…



お月様が1つだと気づいていない女の子の絵本です

あこちゃんは、おかあさんと一緒にかえります。「おかあさん、アフリカにもおつきさまある？」「あるわよ」あこちゃんはほっとしました。「おつきさまがみんなにひとつずつあって、よかったね」

あこちゃんはあんしんしてかえりました。

心が温かくなるお話です。



～えほんだより 10月号～

【今日の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「ぺんぺんぱろろん」

子どもたちの大好きな「音」と「繰り返し」を楽しめる絵本です。題名になっている「ぺんぺん ぱろろん」はぺんぺん草を表した音。

「ととととと とととと」という単純な音や、「ぱっぽこ ぱこぱこ ぱこんぱこん」と真似をするにはちょっと難しい音まで。音に合わせて読み手の表情がかわるのも楽しそうですよ。「なんのおと」…答えまでのドキドキ感が大好きです。



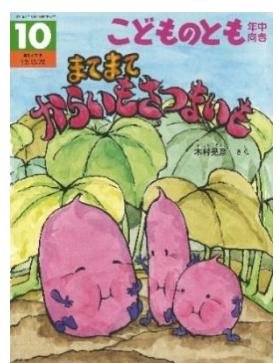
2歳児 「たねをたべた けもの」

けものが種を食べたら、からだからによきによき木が生え、花が開き、生き物たちまで…なんと背中が森になりました。「怖い」と「ふしぎ」が入り混じった絵本です。3歳を迎えるころには、現実のような空想のような…そんなお話も楽しめるようになります。「スイカの種を食べると、スイカが生えてくるよ」ちょっとそんな言葉を思い出しました。



3歳児 「おつきさまと さんぽ」

子どもの頃、だれもが一度は不思議に感じた「お月様がずっとついてくる」。秋は空気が澄んで、月がきれいに見える季節。お月見にぴったりの絵本です。夜が早く訪れる季節になりました。帰り路に「本当についてくるのかな??」って親子で楽しめそうです。その不思議が、月、星、地球、宇宙…なんて興味が広がりそう。空には不思議がいっぱい。昼間と夜だけじゃなく、季節によっても変わりますね。



4歳児 「までまで からいもさつまいも」

ころり、ほっそり、どっしりのさつまいも 3人組のお話です。芋ほりにくる子どもたちのために3人組が準備をしていると、いのししに見つかり一番大きな「どっしりさん」が連れていかれてしまいました。ころりとほっそりの2人が頑張ってどっしりさんを助け出すお話です。いのししはどっしりさんを焼きいもにしようとしています。さあ、2人のさつまいもたちはなかまを助けられるのかな??最後に秋の味覚がもう一人登場します。

5歳児 かがくのとも



5歳児 「リレーするじどうしゃ」

はたらくるまのお話で、道路や公園がきれいに整備されるまでのお話です。

私たちが日ごろ気にせずに歩いているきれいに舗装された道路や、きれいにならされた公園の広場。たくさん働く人と、いろいろな種類の働く車によって作業が行われています。街中では見られない大きな自動車がほとんどです。身の回りの当たり前は、実はいろいろな人や道具、機械によって造られている…そんなことを知るきっかけになる1冊です。

5歳児 「くまちゃんのごはんです」

絵本の醍醐味、現実とファンタジーの合体です。遊んでいるうちに遠くにとんでしまった紙飛行機。ときちゃんの飛行機。ずっと一緒にぬいぐるみのくまちゃんが「ぼくの出番」とばかりに紙飛行機を探しに出かけるお話です。大好きなときちゃんのためにたくさん走って水の中までじゃぶじゃぶなんとか紙飛行機をみつけました。



あれあれ??からだが重くて動けません。くまちゃんはどうしたのかな…??ヒントは「ぬ・い・ぐ・る・み」です。

「かばくん」

子ども達に人気、ロングセラーの絵本です。

一見、小さい子向けに思いがちですが、細部にまで目が向けられる表現がされているため、「あ、ほんとだ。下駄の子がいる」

「わあ、キャベツが丸ごと入る大きな口」。「あぶく」の大きさに



目を向けるなど、幼児はもちろん小学校低学年でもその楽しみ方は色々のようです。「どうぶつ=小さい子」と決めてしまうのは大人だけ。絵本の楽しみ方は無限…それを見つけるも絵本の楽しみ方の1つです。そして、小さい時に何回も読んでもらった絵本は、いつでも、いくつになっても読んでもらっていた時の「うれしくてあたたかい気持ち」にしてくれます。

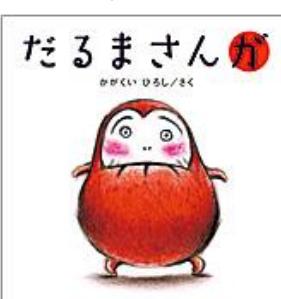
先日、ある保育園の「絵本の実践報告」を聴く機会がありました。

その保育園は病後児保育園です。風邪などの症状は引いたけれど、保育園の登園はまだちょっと難しい…でも仕事は休めないし…の時に利用できる保育園です。

体力も完全ではないし、いつもと違う保育園にちょっと緊張ぎみのAくんは2歳の男の子。

泣くことはないけれど、保育士さんはちょっと距離を取って表情も固かったそうです。

「どんなおもちゃが好きかな?」「ブロックする?」…そんな声をかけても、きゅっと閉じたお口は少しも緩みません。「絵本はどうかな?」と保育士さんが絵本棚の方を指さすと…「あ、「だるまさんが」だ」「Aくんのほいくえんにも、だるまさんあるよ」と、急に表情が明るくなり、大きな声がでました。そして、保育士さんが読み始めると、お膝にちょこんと座って、「どてっ」「びろ～ん」ページをめくるごとに表情は明るくなつていったそうです。絵本はどこにあっても変わらない。だから安心できる「心のよりどころ」になります。大好きな絵本は、初めての場所をいつもの保育園と同じ「安心できる場所」に変えてしまう魔法の力をもっています。





～えほんだより 9月号～

【今日の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「きってみよう」

ぱかっ とんとんとん ざくざくとんとん
やさしくリズミカルな音の表現。
子ども達は大好きです。音を真似したり、
リズムに合わせてからだや手を動かしたり
ばくばく食べる真似をしたり。
いろいろな楽しみ方ができます。そして、なんといっても元気と柔
らかさのある色調。五感で楽しめる絵本です。



2歳児 「へーん！しーん！」

へーんしーんの掛け声で、ひげがはえたり、しましま模様
になつたり…あれあれ？？ほんのちょっと変わっただけな
のに、全然違うものになったよ！
なぞなぞ形式で、ワクワクドキドキしながら大人も子どもも
一緒に楽しめる絵本です。「へーん！しーん！」は一緒に掛け声をかけちゃおう。まだ少し夏を感じる変身です。

3歳児 「gorillaのばあちゃん」

お年寄りゴリラにスポットを当てたお話は初めてです。
ゴリラと言えば力強さのイメージですが、
おばあちゃんゴリラは人間のおばあちゃんと同じようです。
このお話を通して、家庭の中の、そして子どもにとっての
おばあちゃんの存在を感じます。とくに、3歳から4歳と
いえばお兄ちゃん、お姉ちゃんになるちょっとした寂しさを
経験する子も。そんな時におばあちゃんの存在は絶大ですね。



4歳児 「ピッテラトッコ キャンプにいく」

ピッテラトッコはレストランを開いているりす。お休み
の日に湖でキャンプをしようと、たへくさんの材料をも
ってでかけました。すると、お留守番のきょうだいさぎ
や、お父さんが熱を出して困っているタヌキ、お母さん
のために誕生日ケーキを作りたいま。りすさん、みんなの
ためにおいしいものをたくさん作っていたら…あらあら
湖に到着した時にはリュックの中の材料が空っぽです。りすさんどうする？



5歳児 かがくのとも 「さかなのおそじやさん」

ホンソメワケベラという魚のお話です。海には大き
な魚から小さな魚までたくさんいます。大きな魚の方
が強くて威張っているかと思いましたが、なんと、小
さな魚に助けてもらうこともあるようです。

それがからだや口の中の「おそじ」です。
飲み込まれそう…と心配になるけれど、
お掃除をしてもらう魚も、間違って
食べてしまわないように
「あーん」と口を開けたまま
気を付けているようです。
海の生き物の不思議です。



5歳児 「すうじむらのおみせ」

1から10までの数字たちがお店屋さんをしていま
す。「数」ではなく「形」に似たものを売っているよう
ですよ。5歳になればそろそろ数字や文字に興味が
広がります。どちらも最初は「形」。記号やマークの
ように興味をもて覚えて

身の回りや

街の中に、「すうじ」
に似た形をみつけて
みましょう。商品を
みつけられなかつた
4のよんちゃんに

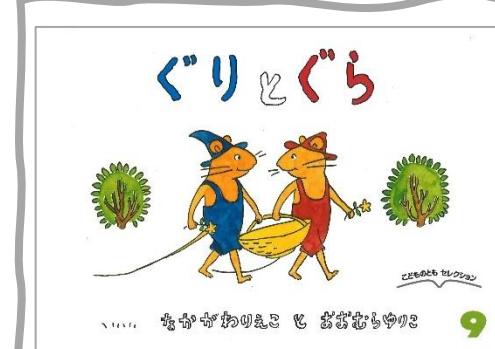
おしえてあげるといいかもね。



～プラスワンのご紹介～ 「ぐりとぐら」

大人も知らない人はいないほどの名作「ぐりとぐら」
50年以上前に出版された絵本です。

ぐりぐら ぐりぐら…という響きがとても耳心地がよく、また食
べることやクッキングが大好きな子は特に楽しんでいるよう
です。この絵本にててくる大きなカステラ。「作ってみたい」と挑
戦する親子さんもたくさんいるようです。



子ども達はぐりとぐらのように、自分も森の中を散歩したり、楽しいことに出会ったりして、絵本の
中で素敵な体験をしています。(したような気持になっています)

3歳からが対象になる絵本ですが、大人になってこのシリーズを読み返し、いくつになっても
楽しめるぐりとぐらです。ちなみに、私は「ぐりとぐらの1ねんかん」が大好きです。あそびの杜図書
室にもあります。大人にお勧めします。

保育園の貸し出し
絵本もたくさん利
用してください。
希望の絵本があれ
ばリクエストを。
みんなで「あそび
の杜図書館」をつ
くりましょう

AIやチャットGTP、授業ではタブレットが使われ、絵本もタブレット収納で、読み上げまでしてくれる時代。読書離れがどんどん進んでいます。子ども達は大きくなるにつれ「自分の好み」が出てきます。その選択肢の中に「本を読む」ことが入ってほしい…私はこの思い1択です。ある大学の理学療法学科教授のことばです。

読書は関心を探り、想像力を養い、脳を活性化し、語彙力を高め、人に伝える力を培う。これらは保健・医療・福祉の専門職にも必要な能力であり、あえて本を「ぐり」と文章に向き合う時間を大切にすることをお薦めする。

たくさん可能性を持つ子どもたちが、自分の選択した夢に
向かっていくその時にも、実は「読書」は大きな力の土台となります。





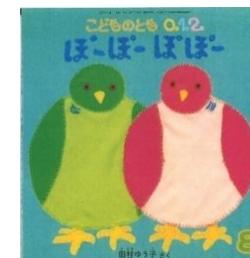
～えほんだより 8月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「ぱーぽーぱーぱー」

はとが1羽いました。ちょっとさみしかったけれど、もう1羽きて2羽になりました。うれしくてぱーぱーぱーぱー。2羽で巣をつくり、たまごが生まれたよ。ぱかぱかの日も雨の日もたまごをあたためました。するとたまごがうごいたよ。ぴきぴき ぴきき…。

絵や写真と違う、やわらかくあたたかい絵本です。

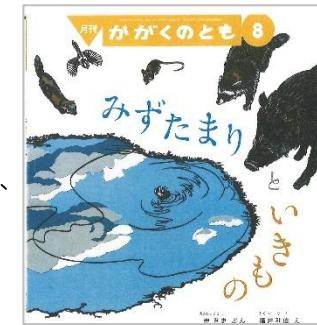


5歳児 かがくのとも 「みずたまりといきもの」

生き物にとって水はとても大切。森の中にできた水たまりを、色々な生き物がそれぞれに関わる姿が描かれています。

飲み水として、水浴びとして小鳥から獣まで、水たまりはその形を変えながら生き物の役に立っているようです。

子ども達も水たまりが大好き。街の水たまりと森の水たまりは違うけれど、街の水たまりも鳥や虫にとって大切な場所なのかもしれませんね。



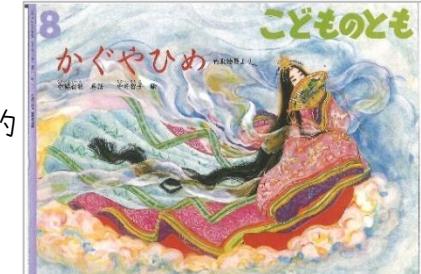
5歳児 「かぐやひめ」

日本最古の創作文学といわれている竹取物語を幼児向けに再話した本格的なかぐや姫のお話です。

いろいろな絵本が出版されている今ですが、日本の昔話は子どもたちに知ってほしいものです。

大人の私たちもよく知っているお話を。日本画の特徴的な色彩は視覚からも楽しめます。

この1冊が昔話を楽しむきっかけにしてほしいです。



2歳児 「ジャングルバス」

運転手はマントヒヒ、お客様はイボイ/シシとヤマネコ、ハシビロコウに牛カモシカ。終点の「あおぞらいしば」まで買い物に行くためにバスに乗っています。

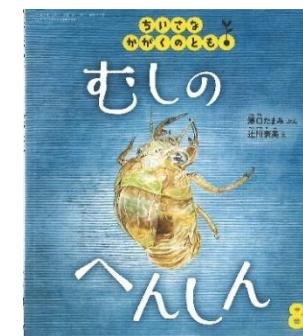
そのあとも次々にバス停でお客様が乗り込んできます。キリンにワニになまけもの。最後は大きなゴリラまで。満員バスの中はどうなってるの？？

3歳児 「むしのへんしん」

男の子が外でへんてこな虫をつかまえて、おうちに連れ帰ったお話。へんてこな虫は蝉の幼虫です。

高い場所に上って、動かなくなって、気付いたらセイになっている。そんなセミの不思議が絵本になっています。

公園でつかまえたセミ。その近くでみかける「ぬけがら」時期によってセミの種類が変わりますが、親子で探しに行って、絵本のように羽化するところを見られると楽しそうですね。



4歳児 「かみちゃんといしちゃん」

紙ちゃんと石ちゃん。まったく違う性質のものが友だちになるお話です。2つが遊んでいる中に、紙と石の性質が上手に組み込まれています。薄い紙も筒状になると強くなっているのに重い石がのってもつぶれないことや、風に飛ばされそうな紙の重しになる石など、日常の中で何気なくやっていることがお話になっています。



お話の最後は、濡れてしまった紙が石の上でひと休み。すると紙ちゃんが…

保育園の貸し出し
絵本もたくさん利
用してください。
希望の絵本があれ
ばリクエストを。
みんなで「あそび
の杜図書館」をつく
りましょう

暑さ厳しい毎日です。この時期しかできない水遊びを楽しんだ後は、ちょっと静かに絵本タイムです。自分の好きな本を選びながら、好きな場所で絵本を楽しんだり、「先生、よんで～」と選んだ本をもって来たりして過ごします。

子ども達に「絵本のどんなところが好き？」と聞いてみました。
「先生が読んでくれるから」「いろいろなお話がおもしろい」
「見たことない虫とかがある(見られる)」
「本を見て遊べるところが好き」「絵がかわいい」 子ども達はそれぞれの表現で伝えてくれました。

絵本を大好きな子はいても嫌いな子はいません。

それが「絵本」の魅力です。





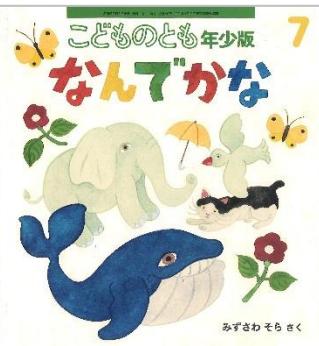
～えほんだより 7月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「にやんころたいそう」

猫の親子が体操をしています。

ごろーん にゅーっ にやんころにやんころ
ぐーぱーぐーぱー 大きな口をあけたり、ごろん
としたり…優しい色彩で優しい絵。
音を十分に楽しんだら、ページに合わせてからだ
を動かすのも楽しそう。いろいろな読み方ができ
そうです。



2歳児 「なんだかな」

ぞうさんのおはながながいの なんでかな…?
から始まって、いくつもの「なんでかな？」
身近な動物たちの「なんでかな？」は2歳児さんには
ちょうどいい「なんで?」「どうして?」の時。
絵本でたのしみながら親子で「それはね…」と楽しめそ
うな絵本です。

3歳児 「なつにみつけた いいものいくつ?」

なつにみつけた…季節のお話のようですが、それだけ
ではなく「数」。これはなにかな? いくつあいくつあるかな?

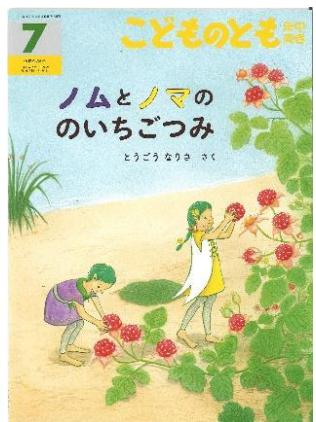
4歳になる子どもたちは、だんだん数を理解してきます。

お勉強のように学ぶより、生活や絵本の中で楽しみなが
ら「数」を知る…生きた学び、知識になります。



4歳児 「ノムとノマの のいちごつみ」

森にすむ小さなひとたち ノムとノマがナワシロ
イチゴ(のいちご)つみにでかけるお話です。
笹舟をつくり出発するのですが、途中で船に水が
入ってしまったり、枯葉や草にのりあげたり…。
やっとの思いでナワシロイチゴを探り、笹舟に乗
せて帰る時。バッシャーン！ とつぜん目の前に
大きな水しぶきが…。



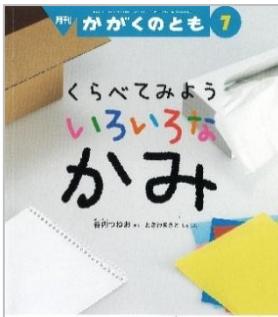
5歳児 かがくのとも

「くらべてみよう いろいろなかみ」

生活の中でいろいろ見かける「紙」柔らかさや厚さ、
でこぼこ…よく見ると色々な種類があるね。

クレヨンで色を塗ったり、
折り曲げたり、破ったり
丸めたり…

紙の種類によって違いがいっぱい。
このちょっとした気づきが、
次への「やってみよう」につながり、
「知る」ことの楽しさにつながります。
実は面白いって身近にいっぱいあるんですね。



5歳児 「かなへびきょうだい」

この季節、草かげから現れる「かなへび」のお話で
す。あにかなへびがちょっと威張って

「さいしょにきたえものは おれがいただく」
でも、いつも2番目に入る獲物の方が大きいよう
です。あにかなへびは考えました。
「ぶーんととんできたおおきいほうを おれがいた
だく」しばらく小さな獲物ばかりでおとうとかなへ
びがパクリ。

すると…いよいよ大物えもの
ハナムグリがやってきました。

さて、あにかなへびは
食べられるかな??



～プラスワンのご紹介～ 「たなばた」

たなばたの話って知っていますか? 7月7日は七夕で、おりひめさま
ひこぼしさまのお話だということは子ども達も知っているようです。

保育園でも七夕に合わせて短冊に願い事を書き、笹飾りにします。



この絵本は幼児さん向けで年齢によっては少し難しいかもしれません
でも、たなばたという身近な言葉で子ども達はきっと興味を持って聞いてくれることで
しょう。ひこぼしとおりひめの素敵なお話…と思っていたのですが、うしかしのちょっといたずらが
始まり。そして、実は子どもがお母さんであるおりひめに会える日が七夕のようです。
絵本の最後にこう書いてあります。

たなばたに あめがふるのは おりひめがながすなみだなのです。

なつのよぞらに ひろくみえる あまのがわ

そのりょうがわに つよくきらめくひたつのほしが うしかしのおりひめです

そして うしかしのそばにふたつ ならんだちいさなほし

あれが ふたりのこどもたちです

保育園の貸し出し絵
本もたくさん利用し
てください。
希望の絵本があれ
ばリクエストを。
みんなで「あそびの
杜図書館」をつくり
ましょう

幼稚園の子ども達にとって「としょしつ」で過ごすことが日常の一コマになっています。
日々、給食後のはみがきがおわると食休みとして図書室で過ごす…という時間をと
るようになっていますが、それが生活の一部になったと実感したことがありました。

先日「早朝散歩」の行事があり、その日はみんなで豚汁朝食をたべました。

なんと、子ども達は朝食を食べ終えると大人に何か言われたわけでもなく、
図書室で絵本を選び自分で読んだり、読んでもらったりしていました。

子ども達にとって絵本を読むことが身近になってきたと感じたうれしい瞬間でした。





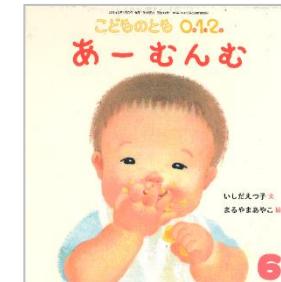
～えほんだより 6月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「あーむんむ」

あーむんむ あーむんむ…ご飯をおいしそうに食べる赤ちゃん。うれしい顔、びっくりした顔。どんどん上手に食べられるようになるよ。

離乳食が始まったのちゃんや、自分で上手に食べられるようになった子どもたちにぴったりの絵本です。最後は一緒に「ごちそうさまでした」のいいお顔。



5歳児 かがくのとも

「オオコウモリのにぎやかなよる」

沖縄に生息するオオコウモリの1日が描かれています。活動は夜。

ガジュマルという木の実が大好きなオオコウモリは、近くにほかのオオコウモリが来ると怒ってしまうほど食いしん坊です。そして、羽を伸ばすとなんと1メートルもあることや、いつもぶら下がっているコウモリたちがおしつこする時はなんと…。自分の住む日本だけれど、知らないことっていっぱいあるね。これをきっかけにいろいろ調べたら楽しそう。



5歳児 「そうじきにまちがえられたそうじきこうじょうのこうじょうちょう」

そうじきにそっくりなぞうの工場長のお話です。おやつを食べてウトウトしていたら、新米の作業員に掃除機と間違えられ、箱詰めされてお店で売られてしまいました。こんなに掃除機っぽいぞう(笑)

買われていった家では掃除機として使われる工場長。その家の出来事や、工場長と気づかれるまで、ずっと楽しいお話です。

この絵本、大好き。



2歳児 「わすれもののかさ」

公園に忘れられた黄色い傘。誰もお迎えに来てくれないから、自分で家に帰ることに…。

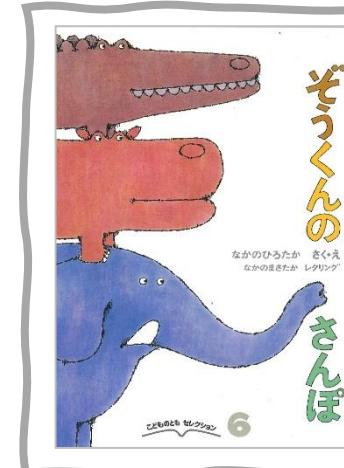
飛んだり浮かんだり、カタコト タタタ、トトと大冒険です。ちょうど長靴を履いたり、傘を自分で上手に持てるようになったりする2歳児さんにぴったりのお話です。

傘もみんなと同じようにお家に帰りたいよね。

3歳児 「すうる すうる ぴたん」

誰もが通りかたつむり飼育。女の子がうちで飼っているかたつむり(でんでんむし)の「でんちゃん」のお話です。くついている場所に合わせて、からだを動かすかたつむりの様子が目に浮かぶように描かれています。ニンジンを食べる姿には「ほんと? ?」「そうかも」…大人はそんな気持ちになります。

子ども達はきっとかたつむり探しにいきますね。



～プラスワンのご紹介～ 「ぞうくんのさんぽ」

子ども達が対好きな定番の人気絵本です。ちょっとのんびり屋でひとのいいぞうくんがみんなを散歩に誘って出かけます。「ぞうくんはちからもちだね」ちょっとうれしいけれど「ちょっとおもいな」って。

かばくん、ワニくん、最後にかめ君を乗せたら…**どぼーん**って

みんなで池に落っこちた。でもね、天気がよくていい気分。

みんなで一緒って楽しいね。

先日、図鑑絵本が保育園の図書室に仲間入りしました。

この時期は戸外遊びが盛んになり、外から戻ってきたときには、子どもたちはいろいろな虫や木の実、お花や野草を手に持って帰っていきます。最大の被害者(笑)はやはり「ダンゴムシ」です。小さなプラスチックケースを手に出かけていき、帰りにはころころコロコロ…。プラケースの底は丸い物体でいっぱいです。

「だんごむしつかまえたよ」と、捕まえた子もそうでない子も嬉しそう。

「かうの?」「なにをたべるの?」そんな相談をしながら、結局元の公園に逃がしてあげることになったようです。実は、乳児棟の目の前が公園なのですが、捕まえたのは別の公園。「仲間がいるはずだから元の公園にもどしてあげよう」と

担任の先生の発案だそうです。なんてやさしい…。

絵本を見て「このむし、さがしにいこう」とか、捕まえてきた虫と絵本を見比べながらあれこれと調べたり…。子どもたちは上手に絵本を利用していますよ。絵本があそびにつながるって楽しいですね…



4歳児 「あめのひのえんそうかい」

6月と言えば雨。そんな季節にぴったりのお話です。

風の吹く雨の日は、いろいろな音がする。

音を楽しんでいると、次々に動物も来たよ。

鳴き声や水たまりの音をみんなで合わせていくと、楽しい演奏会のようです。気分よく演奏会を楽しんでいるとだんだん音が小さくなり…雨が上がりしました。すると…気がついたらみんなもいなくなっていました。夢?ほんと?絵本ならではの楽しさのあるお話です。

いろいろな音を試してみたくなりますね。

保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。
希望の絵本があればリクエストを。
みんなで「あそびの杜図書館」をつくりましょう





～えほんだより 5月号～

【今月の絵本紹介】

子どもは、絵本の中に入りこんで一緒に体験しています。大人になってからでは絶対にできない、不思議な経験を絵本の中に入つてすることができます。

0歳児・1歳児 「だーれか だーれか」

「ぶんぶんぶんぶん だーれか だーれかいませんか」
そんなフレーズを繰り返しながら、はちが友だちを増やしていきます。これから季節に見られそうな虫がでてきます。子どもは見つけてもらうのが大好き。「だーれかだーれかいませんか」と探してあげると楽しい遊びが始まらそう。



2歳児 「かけっこ」

ゴールを目指して走ったり、坂を駆け下りたり上ったり、もちろんジャンプも上手になる2歳ころの子ども達にはピッタリのお話です。絵本を何度も読んだ後に、絵本のフレーズを使いながらからだを動かすのも楽しそう。動物たちの表情が楽しい絵本です

3歳児 「わたしのむしとり」

この季節になると、子ども達の虫取りがはじまります。一人前に(?)虫取り網をつかって虫取りに挑戦するころ。大きな道具に振り回されるけれど、こんな経験で使い方を知ったり、虫取りの楽しさを知ったりするのかしら…ね。



4歳児 「どろんこ どろっちょ」

はるくんが泥だんごづくりに苦戦しています。どうやってもうまくできません。すると泥の中から「どろっちょ」が現れます。「かわきすぎ」「みずかおおいよ」と教えてくれて、その通りに作ったら上手になりました。もう1つ作ったら…あれあれ、どろっちょがいなくなってしまいました。泥だんご作りは、子ども達にさせたい遊びの1つ。公園の土では難しいのだけれど、是非、親子で挑戦してほしいです。

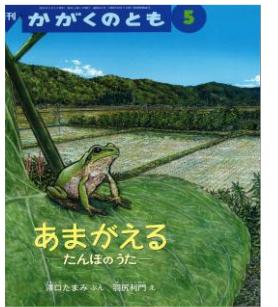


5歳児 かがくのとも

「あまがえるーたんぽのうたー」

あまがえるの1年を描いたお話です。最近おたまじやくしも見られなくなりました。きっと最近の子どもたちはかえるは「川」で見かけるようです。でも、かえるといえば田んぼなんですよね。

田んぼのある地域では、梅雨から秋にかけてかえるの大合唱がきこえます。この本で知りました。(私だけ?)あまがえるといえば「緑色だ」と思っていましたが、まわりにあわせて色が変わるのですって…



5歳児 「ひでのひみつ」

なんとか昔話のようなお話ですが、田畠のある地域の日常の出来事。家の仕事を当たり前に手伝っている子、広い畠で転げまわりながら遊ぶ子。そんな日常の中に、親ひばりと子ひばりの親子の姿や、親やぎと子やぎの様子などがそっと描かれています。地方のことば「方言」がたくさん出でます。お子さんへの読み聞かせ前にぜひ「予読」をして、方言に慣れておくと面白さ倍増です。



絵本って…

絵本にはよく

「読み聞かせなら〇歳から、自分で読むなら△歳から」と示されています。そのため、大きくなったら赤ちゃん絵本は卒業…と考えがちですが、赤ちゃん向けの絵本は、こんどは字が読めるようになつたら自分で読むにはちょうどよい文字数です。単純な文章なので、文字を拾ってことばの意味を読み取ることもしやすいですね。

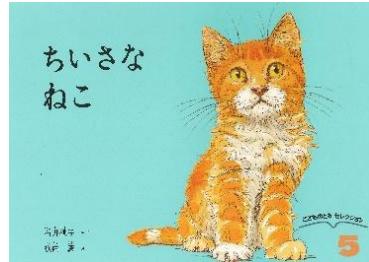
赤ちゃん当時にその絵本を読んであげた時のお子さんの姿など話してあげるのもうれしい時間になるはずです。



～プラスワンのご紹介～

「ちいさなねこ」

ちいさなねこにとっては、全てが大きな世界。家の中にいたこねこが大冒険。



家の外は、車も犬も大きくて、怖くて驚くことだらけでした。大きな犬にほえられて木の上に逃げていったこねこ。こねこの声を聞きつけたお母さんねこが助けにきてくれました。

小さい子向けの絵本にもなりますが、ねこの生体は描かれている絵本もあり、そして、最後は「やっぱりお母さんの近くが一番あんしんできるね」という優しい気持ちになる絵本です。

お母さんねこにくわえられて連れていかれるときのこねこの顔にワスっとします。

安心感を得た時の呆然とした表情のようです。

～絵本だより 発行について～

絵本だよりにはおおまかなあらすじや、どんな遊びがでようかなど載せてきます。

今月号はどんなお話ををお知らせすることで、絵本が手元になくても、お子さんとの話題作りに役立てていただければと考えています。

分園では、食後や夕方の自由遊びの時間など、図書室で過ごす子がふえてきました。

図書室の一角は看護師さんの場所もあるのですが、看護師さんにもたくさん絵本を読んでもらっています。同じ絵本でも、

読み手によってその面白さが違うようです。絵本の楽しみ方は奥が深いようです。

乳児棟の子ども達も、活動の合間に先生に読んでもらう絵本が大好きな様です。



保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。希望の絵本があればリワエストを。みんなで「遊びの杜図書館」をつくりましょう



～えほんだより 4月号～

【今月の絵本紹介】

子どもは、絵本の中に入りこんで一緒に体験しています。大人になってからでは絶対にできない、不思議な経験を絵本の中に入つてすることができます。

0歳児・1歳児 「みんないいおかお」

「わんわん」「にゃあにゃあ」
なじみのある動物のお顔から始まり、最後は赤ちゃんのかわいいお顔。「〇〇ちゃんこっちむいて」と名前を入れて読んで(呼んで)あげるうれしそうです。



2歳児 「おやつですよー」

6匹の子ねことママねこちゃん笑顔になれる子ねこのなまえです。
みんなでおいしいものを作ります。
2歳になると大人の真似がしたくなる…
真似から新しい「できる」「やりたい」が生まれるはずです。



3歳児 「おみずでおえかき」

4歳になる年齢には、身の回りの「ふしぎ」に気づきます。今月は、身近にある「水」。乾いた場所に水をたらすと「おやおや？」…「あっ、きえた！」
この絵本を読むと、すぐにやってみたくなりそう。これから季節、楽しめそうです。



4歳児 「せっしゃはにんじや」

「せしゃはにんじや 〇〇にんじや
まきものくわえて どろんどろん」
テンポとリズムがなんだか楽しい。
お話を楽しいけれど、動きを付けながらリズムを楽しむこともできる絵本です。



5歳児 かかくのとも

「スーパーじっけんマシンアワサール」
年長さんになると「知的好奇心」がむくむく…
でも、科学的で「すごく難しい…」
というお話してもなく、現実的な実験では「できないけれど」
「もし〇〇と××が合体したらどうなると思う？」という想像力をかきたてられる絵本です。「じやあさ、▲▲と■■が「たたいするとどうなる？」なんてあそびが広がります。



～絵本の扱い方～



0歳児のころから絵本に親しみ、玩具ではない「絵本」の扱い方を見せていくと、本をぽつと投げたり、踏んだりしなくなります。

「大事にしようね」という気持ちを伝えていきましょう。「また読もうね」と本を片付けるようにしていくとよいでしょう。

「上手にしまえたね」と声をかけてあげると一層気持ちが伝わります。



～保育室から～

「子どもたちに絵本のある環境を」という思いで、昨年度はこれまで以上に日々のあそびや生活の中に絵本を取り入れてきました。新年度になり、新しく担任をもった保育士さんから同じような声が聞こえてきました。それは「ふだんちょっと落ち着きがない子も、絵本が始まると真剣な〇〇をして聞いている」ということです。

「どの子も絵本が大好きで、絵本を読み始めるとすごく集中してきています」

1歳児クラスの保育士談。まだ1歳児なのに…と驚いていました。

たった1年、環境や大人の意識をかえるだけでも、こんなに子どもたちの姿が変わったんだと実感しました。電子機器、動画が手軽な時代だからこそ、せめて就学までの6年間は、大人の声の心地良さとページをめくるわくわく感、そして絵本の中の世界を楽しんでほしいと感じています。大人にも絵本好きになってほしいです。

5歳児 「バルバールさん もりへいく」

子ども達が大好きな「バルバールさん」シリーズです。弟子入りしたおさるさんのアイデアで「困りごとを」とんどん解決して、バルバールさんの手助けをしていくお話です。

お客さんになった動物や人間の手伝いをするおさるさん。絵本だからこそその楽しさがいっぱい詰まっている1冊です。



～プラスワンのご紹介～



へんてこな世界に迷い込んだ「かんた」のお話

です。ちょっと怖いけれど、どきどきする大好きなおばけがでてきます。子ども達に人気の絵本。その理由の1つが「くりかえしててくる異世界へのフレーズ」です。気になる方はぜひ読んでいたたかくよいと思いますが、この絵本を読んだ後は、そのフレーズを口ずさみたくなるようです。

日常と異世界がつながっていることのおもしろさ。躍動することばと絵が子どもたちを存分に楽しませてくれるファンタジーの絵本です。

今月の「こどものともセレクション」がこの絵本でした。大人が読んでも楽しい絵本で、私もハードカバーの本を持っています。

保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。
希望の絵本があればリワエストを。
みんなで「あそびの杜図書館」をつくりましょう

